スポーツ庁
JAPAN SPORTS AGENCY

令和7年度

地域スポーツクラブ活動体制整備事業

地域スポーツクラブ活動への移行に向けた実証事業

岐阜県下呂市

自 治 体 名 ： 岐阜県下呂市
担 当 課 名 ： 下呂市教育委員会学校教育課
電 話 番 号 ： 0576-52-4800

1.自治体の基本情報

スポーツ庁

基本情報

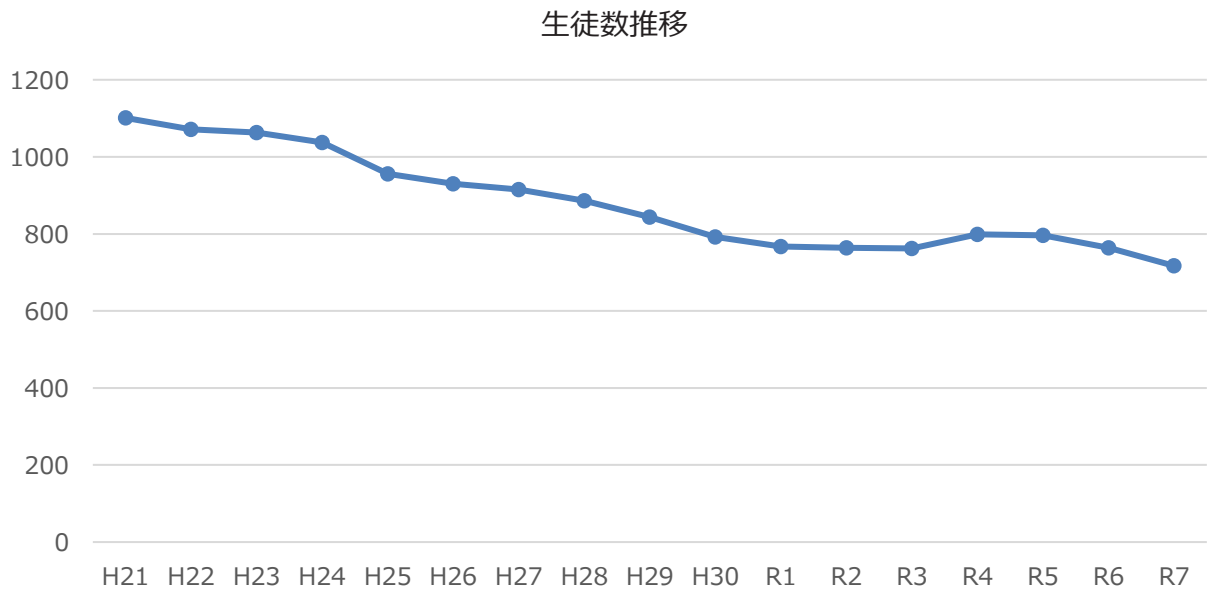
面積	851㎢
人口	28,336人
公立中学校数	6校
公立中学校生徒数	717人
部活動数 （運動部活動のみ）	38部活
地域クラブ活動数	25クラブ
市区町村の協議会・検討会議等の設置状況	設置済
市区町村の推進計画・ガイドライン等の策定状況	策定済

地域連携・地域展開における市区町村の現状・課題

下呂市では、令和6年度から休日の部活動を全面的に地域クラブへ地域展開し、地域展開を本格的に進めている。現状の課題としては、大きく2点が挙げられる。

1つ目の課題は、クラブ指導者の安定した確保と、その謝金に関わる財源の確保である。令和7年度は、市内中学校38部に対して73名の指導者を確保し、指導1回につき3,000円の謝金を設定して取組を開始した。休日の指導者は、教職員の希望者と地域の社会人指導者による運営としたが、今後、持続可能な地域クラブとして継続するためには、より安定的な指導者確保が不可欠となっている。

2つ目の課題は、学校間で生徒が移動する際の手段と交通費である。下呂市では生徒数の減少が顕著であり、平成16年の4町1村合併時の1,160人から、現在は717人へと大きく減少している。そのため、市内に点在する中学校ごとの単独部活動が成立しにくく、拠点校を中心とした合同チームでの活動が必要となっている。しかし、生徒がクラブに参加するために移動する際の費用負担が大きな問題となっており、解決すべき重要な課題の一つである。



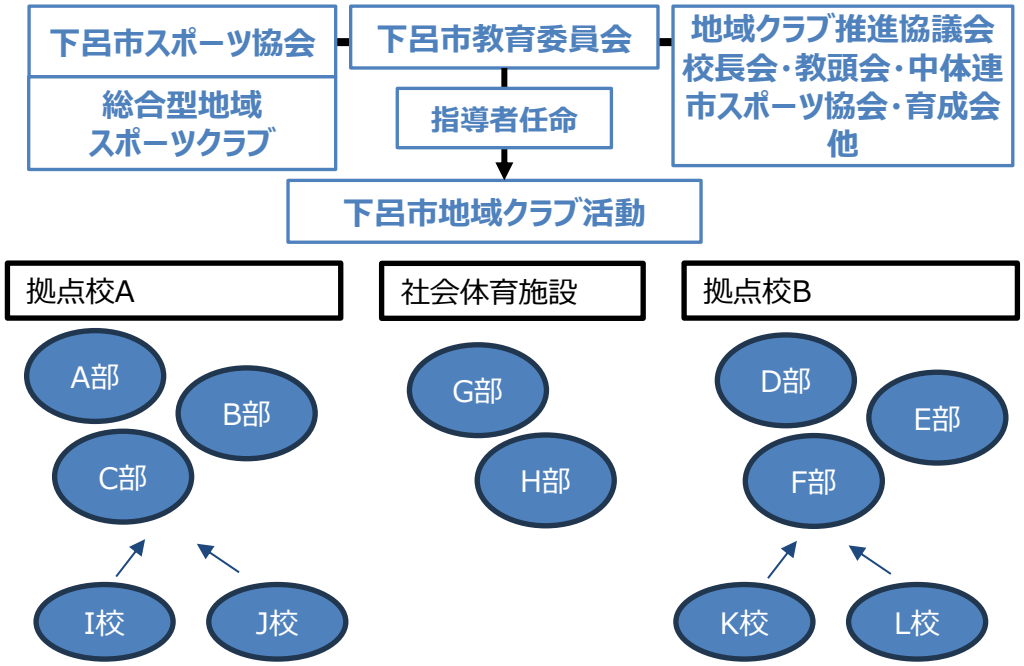
下呂市教育委員会調べ

2.実証内容と成果

スポーツ庁

運営体制・役割

●市区町村における推進体制図



●行政組織内での役割分担

◉教育委員会
- 学校教育課：指導者の任命、学校や中体連との連絡調整
- 教育総務課：予算措置

◉首長部局
- まちづくり推進課：中学生部活動地域クラブ活動の施設環境整備等

年間の事業スケジュール

令和7年4月	下呂市中学生部活動地域クラブの実施
令和7年6月	第1回指導者研修会・交流会の開催
令和7年8月	第2回指導者研修会・交流会の開催
令和7年10月	第1回協議会の開催
令和7年10月	第3回指導者研修会・交流会の開催
令和7年12月	第4回指導者研修会・交流会の開催
令和8年2月	第5回指導者研修会・交流会の開催
令和8年3月	第2回協議会の開催

2.実証内容と成果

スポーツ庁

地域クラブ活動の運営実績

①全体に関すること

実施した地域クラブ活動総数		25クラブ	
ケース別地域クラブ活動数	A：部活動を地域移行した形の地域クラブ活動数（及び移行された部活動数）		25クラブ（38部活動）
	B：部活動にはない種目等、新規の地域クラブ活動数		0クラブ
全体の指導者数	73人	全体の運営スタッフ数	1人

②各地域クラブ活動に関すること（一部抜粋）

地域クラブ活動名	運営団体種別	種目	実施回数（平日・休日）	実施時間帯	参加者（学年別）	実施期間	指導者数	運営スタッフ数（他クラブと兼務）	会費	大会参加方法
下呂市男子バレー	下呂市教育委員会	バレーボール	休日4回程度	土曜日 8:30-11:30	1年4人 2年7人 3年3人	令和7年度	5人	0人	なし	中体連：クラブ
下呂市陸上競技	下呂市教育委員会	陸上競技	休日4回程度	土曜日 8:30-11:30	1年28人 2年18人 3年24人	令和7年度	7人	0人	なし	中体連：部活動
下呂NORTH男子	下呂市教育委員会	バスケットボール	休日4回程度	土曜日 8:30-11:30	1年11人 2年8人 3年10人	令和7年度	4人	0人	なし	中体連：クラブ
下呂BBC	下呂市教育委員会	軟式野球	休日4回程度	土曜日 8:30-11:30	1年10人 2年4人 3年2人	令和7年度	4人	0人	なし	中体連：クラブ
下呂剣友会	下呂市教育委員会	剣道	休日4回程度	土曜日 8:30-11:30	1年6人 2年0人 3年11人	令和7年度	5人	0人	なし	中体連：クラブ
萩原北中卓球	下呂市教育委員会	卓球	休日4回程度	土曜日 8:30-11:30	1年9人 2年3人 3年8人	令和7年度	2人	0人	なし	中体連：部活動

2.実証内容と成果

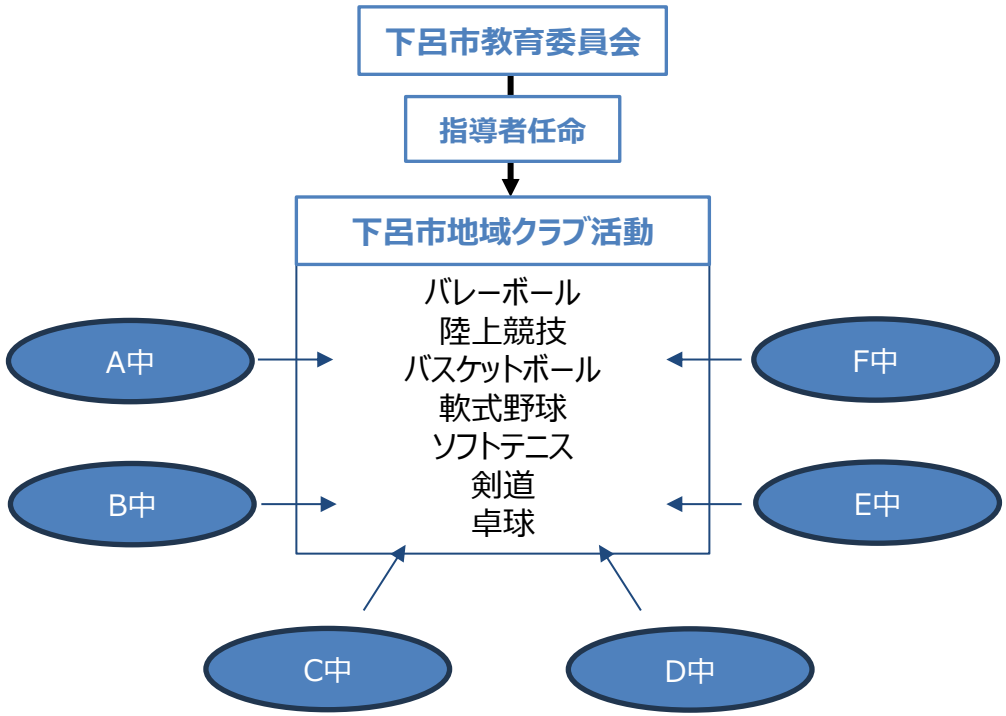
スポーツ庁

主な取組例

●下呂市中学生部活動クラブ　活動概要

地域クラブ活動で実施した種目	バレーボール、陸上競技、バスケットボール、軟式野球、ソフトテニス、剣道、卓球
運営団体名	下呂市教育委員会
期間と日数	4月1日～3月31日 土曜日、月4回程度
指導者の主な属性	小中学校教員、社会人指導者
活動場所	拠点校、各体育施設
主な移動手段	スクールバス、公共交通機関
1人あたりの参加会費等（年額）	0円
1人あたりの保険料	スポーツ安全保険 生徒1人あたり：480円/年（市で補助） 指導者：99,740円/年（団体）

●地域クラブ活動を実施する際の運営体制図



●指導者や運営スタッフ等の役割分担等

- クラブ指導者
  役割：各クラブ活動における指導、会場確保、大会申し込み等を行う
- 事務局（下呂市教育委員会）
  役割：協議会開催、研修会企画運営、指導者任命、保険加入等を行う

2.実証内容と成果

スポーツ庁

取組内容

●取組項目名　イ：指導者の質の保障・量の確保

取組事項

5回の研修を計画し実施した。第2回～第4回は、以下のような外部講師を招いての研修会を開催した。

【第1回】6/18（水）
令和7年度 下呂市における地域展開について
下呂市 中村好一 教育長

【第2回】8/20（水）
食育＆遺伝子栄養セミナー ～部活動に励む中学生に必要な栄養とは？～
株式会社キーマイン 代表 長嶺誠氏・木戸清香氏

【第3回】10/22（水）
子どもの未来を預かるジュニア期のスポーツ指導のあり方について ～医科学面からのアプローチ～
日本体育大学 教授 杉田正明氏

【第4回】12/17（水）
心理学のスキルを活用した子供が主体的に動くチームづくり
株式会社CarryAge代表 渡邉紗恵子氏

【第5回】2/18（水）
岐阜県、下呂市の地域展開の状況について
教育長、地域クラブ活動推進コーディネーター

取組の成果

- 研修会への参加率が向上した。
  - 令和6年:45名程度/回 → 令和7年①43名②61名③51名
- 研修会への要望が増えた。
  - メンタル指導について知りたい。技術等に注視されるのでそれ以外の部分が知りたい。
  - 仲間づくりの視点での講演を希望したい。サッカーや野球チームのコーチや、吹奏楽の強豪校のコーチからチームティーチングを学べるといい。
  - どのような栄養素を取るといいのかを深く知りたい。
  - 子供のやる気の出させ方
  - 主体性を生み出すクラブ指導
  - こどもの成長に合わせたトレーニング方法について
  - 怒る指導と褒める指導
  - モチベーションの維持や向上
  - 子供との接し方
  - 体作りトレーニング

今後の取組における課題

- 同じ競技指導者同士の交流会の場を確保する。
- 指導者が大きな収穫を得られるように、研修会テーマをより要望に応える形で開催する。

課題への対応方針

指導者の問題課題の把握に努めたり、指導者同士が気軽に交流できる場を提供できるようにするため、下呂市スポーツ協会と連携を図り、研修会を共同開催する等、下呂市の子どもたちのための研修としての充実を図る。

2.実証内容と成果

スポーツ庁

取組内容

●取組項目名　イ：指導者の質の保障・量の確保

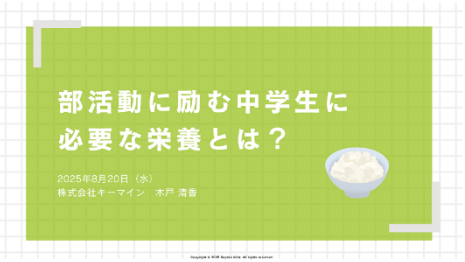
多様な人材の発掘・配置に向けた取組

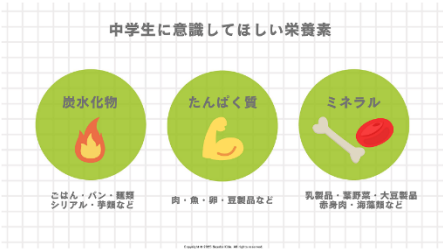
○下呂市スポーツ協会との連携
・下呂市スポーツ協会と連携し、地域スポーツクラブ活動の推進に向けた体制づくりや指導者確保の取組を進めている。

○研修内容や研修対象者についての意見交換
・指導者の資質向上を目的として、研修内容や対象者の在り方について関係者間で意見交換を行った。具体的には、現場のニーズや課題を踏まえ、「どのような内容の研修が必要か」「どの層の指導者を対象とするか」などについて協議を行い、より実践的で効果的な研修の企画につなげるための検討を進め

指導者研修の内容

研修名	食育&遺伝子栄養セミナー 部活動に励む中学生に必要な栄養とは？
講師	株式会社キーマイン 代表 長嶺誠氏・木戸清香氏
開催日	令和7年8月20日（水）
研修内容	プロアスリートもサポートしている株式会社キーマイン代表長嶺誠氏及び木戸清香氏を講師に迎え、中学生に必要な栄養について学んだ。なぜ中学生に「栄養」が重要なのか、試合当日の食事のポイント、食事でコンディショニングを図り免疫力をアップするポイント等、科学的根拠や実例を示しながら具体的に説明を聞くことができた。また、受講者との質疑応答にも回答をいただく等、活発に意見交換する場となった。





出典：下呂市教育委員会学校教育課

指導者研修受講者の声

- 成長期、今しかできないことを考えさせることで、目的を明確にして、その子にあった指導に繋がることがわかりました。
- 理解して、行動して、継続することが大事。目的が大事。人それぞれ大事なことは違う。ご飯を食べる時間帯で成長が変わる。
- （参考になったこと）体質については見た目や様子からは判断できないということ。食事の回数を増やしたりして、トータルカロリーをコントロールすること。
- 手段ではなく目標を明確にして子供に伝え切ることの大切さを学びました。スポーツの指導だけでなく教育の現場でも同じことが言えます。
- 成長期という限られた時期に何が大切かを考えることで、目標が明確になり、一人ひとりに合った指導につながることを学んだ。理解するだけでなく、実際に行動し、それを継続していくことが重要である。
- 目的意識を持つことが大切であり、大事にすべき点は人それぞれ異なる。例えば、食事のタイミング一つでも成長に影響を与えることが分かった。

2.実証内容と成果

スポーツ庁

取組内容

●取組項目名　イ：指導者の質の保障・量の確保

指導者研修の内容

研修名	子どもの未来を預かるジュニア期のスポーツ指導のあり方について ～医科学面からのアプローチ～
講師	日本体育大学 教授 杉田正明氏
開催日	令和7年10月22日（水）
研修内容	日本体育大学 教授 杉田正明氏によるジュニア期のスポーツ指導についての講演会を実施した。医科学面での明確なエビデンスを基にした指導ポイントについて明らかにしたことにより、指導者はこれまでの経験から実施してきた指導を見直すきっかけとなった。そして、今後の指導のあり方を再考するとても良いきっかけとなった。





指導者研修受講者の声

- 私にとって今回の講演は、「真摯に子どもと向き合うために大切にしたい意識」について考える機会となりました。たとえ、どんな専門的な指導力をもっていたとしても、子ども一人一人を大切にする意識と指導者としての人間力がなくては、子どもには指導は響かないと思いながら、これまで指導にあたってきました。そんな中で、杉田先生から「指導をやらせてもらえるのは、子どもがいるからである」という言葉を聞き、改めて、子どもを大切にする気持ちと、真摯に向き合う気持ちをもつことの大切さを学ばせていただきました。指導者として、「どういった指導をするか、どんな言葉を使って伝えるか、どういった姿勢を私自身が子どもたちに見せるか」は、専門的なことを教える以前に大切にしなくてはならないものだと思います。そういった意識をもち続けることで、専門的な学びへの意欲につながったり、子どもたちと心でつながれる指導者になれたりするように思います。中学校の部活動は、かけがえのないものです。そんな貴重な時間に携わらせてもらっていることへのありがたさと尊さを感じながら、真摯に子どもと向き合っていきたいです。
- 2024パリオリンピックでの合言葉「一歩、踏み出す勇気を」に合ったように中学生に実感してもらうには、挑戦してみたいと思えるような動機付けが指導者から提供するのをより大切にしていきたいです。同時に中学生に一人の人間として「感謝する」ことの大切さを伝えてきましたが、感謝の気持ちを持つことが健康状態にもつながるとは驚きました。だからこそ「応援される選手」になるために言われてやるのではなく、自発的にできる選手育成をしていきたいと強く感じました。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組
オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組

スポーツ庁

取組内容

●取組項目名　イ：指導者の質の保障・量の確保

指導者研修の内容

研修名	心理学のスキルを活用した 子供が主体的に動くチームづくり
講師	株式会社CarryAge 代表 渡邉紗恵子氏
開催日	令和7年12月17日（水）
研修内容	株式会社CarryAge 代表 渡邉紗恵子氏による、子どもの主体的な動きを促す心理学スキルを基にしたチーム作りについての講演会を実施した。「褒める」ことの重要性とともに、どのように「褒める」ことが効果的であるか、具体的な声掛けを提示しながら参加者とともに考えていく講演会となった。

指導者研修受講者の声

- 効果的な褒め方についてわかっているつもりだったが、改めて研修の場があるのはありがたい。自分の指導を見直すきっかけになった。研修自体も大変わかりやすかった。
- 褒めることに種類があることがわかり、褒める質を高める意識を持ちたいと思いました。



出典:下呂市教育委員会学校教育課

指導者研修受講者の声

- 「褒める」ということは自分も生徒に指導する際常に意識するようにしています。生徒の表情が明るくなるときもあれば、「伝わったかな…？」と心配になるときもありました。褒め方の種類と心理学的なそれぞれのよさを整理して理解できたことは、今後の生徒への指導に大いに役立ちそうです。「成長促進型」を意識し、目標は生徒に「自分に価値がある」「自分にできる！」と思わせることとして声をかけていきます。
- 褒め方は考えながら声をかけてきましたが、今まで何となくで行ってきたことが理論立てて系統的にまとめられていたので今後指導に活かせると感じました。
- 中学生女子のメンタル面の悩みが多かったので、成長させられる褒め方の話が聞けたのは、今現在の指導にとても参考になったので、良かった。

指導者の資格取得促進に向けた取組

- 岐阜県開催の研修会案内を周知した。

平日・休日の一貫指導に関する取組

- 平日練習の内容を学校で共有し、どの学校でも一貫した取組ができるようにした。
- 平日に参加できる指導者について、学校職員以外の社会人指導者がいないか確認し、平日の取組についても連携が図れるよう体制を整えていく。

2.実証内容と成果

スポーツ庁

取組内容

●取組項目名　エ：面的・広域的な取組

取組事項

拠点校の設定にあたっては、近隣中学校からの移動負担を考慮し、最長でもおおむね30分程度で移動が可能な範囲の学校を選定し、そのうえで、生徒や保護者にとって過度な負担とならないよう配慮しながら、複数校による合同部活動が円滑に実施できる体制を整える。

また、近隣中学校間で連携しても十分な人数を確保できない部活動については、保護者の意向やニーズを踏まえ、市内全体を対象としたクラブチームを新たに立ち上げ、具体的には、「下呂市男子バレークラブ」および「下呂剣友会」を設立し、継続的に活動機会を確保できる環境づくりを行う。

今後の取組における課題

顧問と土日に指導を担当する地域指導者との間で、練習内容や活動計画について十分な情報共有を行い、指導方針の一致を図るなど、さらなる連携体制の構築を進める。

具体的には、活動前後の打合せや記録の共有、課題のすり合わせ等を通じて、平日と休日で一貫性のある指導ができるよう調整を行う。また、年度ごとに所属生徒数や構成が変動するため、それぞれの状況に応じて適切な合同練習や活動形態の在り方について、毎年度検討を行う必要がある。生徒の技能レベルや人数バランスを踏まえ、効果的かつ安全に配慮した活動が実施できるよう、柔軟に対応していく。

取組の成果

下呂市内6中学校におけるスポーツ部活動38部については、土日において拠点校を中心とした合同形式によるクラブ活動を実施した結果、活動単位が統合され、25部活動に再編された。これにより、各学校単独での運営から複数校による合同運営へと移行し、効率的かつ安定した活動体制を構築することができた。

それに伴い、1つの活動団体は担当指導者数が増え、所属生徒数も増加した。これにより、多様なレベルやニーズを持つ生徒への対応や、安全面への配慮、指導者間の連携強化などにつなげることができた。

課題への対応方針

研修会開催時には、学校の顧問と地域指導者が打合せを行う時間を意図的に設定し、相互の情報共有や意識のすり合わせを図るとともに、交流の機会として位置づける。これにより、指導方針や練習内容について共通理解を深め、平日と休日の指導に一貫性を持たせた連携体制の強化につなげる。

また、「やりたい」と願う生徒一人ひとりの活動機会を保障できるよう、年度ごとに生徒数や競技特性、活動ニーズ等の状況を踏まえたうえで、適切な合同部活動の在り方について検討を行う。検討にあたっては校長会と連携しながら、学校間の調整や運営方法の整理を行い、生徒が安心して参加できる持続可能な活動体制の構築を目指す。

2.実証内容と成果①

スポーツ庁

総括・成果の評価・今後に向けて

●総括

下呂市における部活動について、生徒及び教職員における諸課題は以下のようである。

＜生徒＞
- 人数が少なく成り立たない部活動がある。

→ 部員数の減少により、必要最低限の人数が確保できず、練習や大会への参加が困難となる部活動が見られる。特にチーム競技では、試合に必要な人数が揃わないケースもあり、活動の維持自体が難しい状況となっている。
- 試合形式練習等に支障をきたす場合がある。

→ 人数不足により、試合形式の練習や実践的なトレーニングが十分に行えない場合がある。その結果、技術向上の機会が限られ、試合に向けた実戦感覚を養うことが難しくなっている。
- 切磋琢磨の関係が築きにくい。

→ 同じチーム内で競い合う相手が少ないため、互いに刺激し合いながら成長する環境が整いにくい。これにより、練習の質やモチベーションの維持にも影響が出ることがある。
- 専門的指導が受けられない場合がある。

→ 指導者の確保が難しいことから、競技ごとの専門的な知識や技術に基づいた指導が十分に受けられないケースがある。そのため、技術向上や安全面への配慮において課題が生じることがある。
- 小さい学校では、部活動の選択肢が少ない。

→ 生徒数が少ない学校では設置できる部活動が限られるため、生徒が希望する競技に参加できない場合がある。その結果、活動の機会が制限され、運動機会の確保や興味・関心に応じた選択が難しい状況となっている。

＜教職員＞
- 常に部活動の削減を求められるが行き詰まる。
- 経験者を配置できない場合が多い。
- 多くの部活動が顧問一人体制で休みづらい。
- 人によっては、ストレス、多忙感、教材研究の妨げになっている。

こうした諸課題に対して、今年度から実施した施策は、上記の諸課題に対する下呂市型の地域クラブ展開となる新たな取組として成果が得られた。

●成果の評価

下呂市全体として、明確なコンセプトの明確化が重要となっている。下呂市では、6中学校全てにおいて、また、地域クラブ全体として以下のコンセプトを明らかにして活動を展開している。

＜コンセプト6つの柱＞
- 生徒がやりたいことに挑戦できる。
- 生徒が専門的な指導を受けられ、競技力等の向上が図れる。
- 生徒の切磋琢磨できる環境が生まれ、社会性が養える。
- やりがいをもった指導者が充実感を味わえる。
- 誰もが参加できる。（特に経済面）

「下呂市の子どもたちを下呂市の指導者全体で支える」という考えを共有し、上記コンセプトの理解をもとに地域展開することが、学校の枠を超えて生き生きと活動できる生徒たちを支える大切な要因となっている。

●今後に向けて

下呂市の部活動及び地域クラブ展開は今年で2年目となった。生徒の連盟登録等の事務的作業、平日と休日の連携の仕方等、課題に対して各クラブでの検討を今後も重ねていく。

次年度は、平日指導できる社会人指導者について検討しながら実施を進める。引き続き、協議会や校長会、各クラブ指導者との協議しながら、生徒に軸足を置き、現状に合わせた持続可能な下呂市型部活動地域展開の方策を進めていきたい。

2.実証内容と成果②

スポーツ庁

アンケート結果・参加者/関係者の声

●アンケート結果

＜C中学校保護者アンケート＞
Q 生徒達はクラブ活動において一生懸命に練習している。
- 4.8（5件法による評価）

＜B中学校生徒アンケート＞
Q 自分はクラブ活動に一生懸命に取組んでいる。
- とてもそう思う 68%
- そう思う24%

（4件法による評価）

＜B中学校保護者アンケート＞
Q 子どもはクラブ活動に一生懸命に取組んでいる。
- とてもそう思う 76%
- そう思う22%

（4件法による評価）

＜E中学校保護者アンケート＞
Q 目標をもって向かわせ、仲間のつながりを大切にしたクラブ活動ができている。
- 3.3（4件法による評価）

●参加者/関係者の声

参加者/関係者①
他校の生徒とかかわれるのがいいと思う。

参加者/関係者②
せっかく地域の人と部活動ができるのなら多くの人にいろんなことを教わりたい。学校の先生にも地域の方にも教わりたい。

参加者/関係者③
先生以外の様々な意見を取入れられるという観点から良いと思う。

参加者/関係者⑤
地域の同じ部活動の人たちと、集まって高いレベルを目指して一生懸命取組たいです。一緒に取組めば、きっと自分だけじゃなくて、どの地域でもみんなが必死にやると思います。

参加者/関係者⑥
部活動とクラブ活動との境が明確でないため、確認したい事があっても、どなたに聞けば良いのかわからず困惑します。

参加者/関係者⑥
部活動中に、水分摂取等指導者から促して頂かないと、中学生といえどまだ判断に欠ける部分もあるかと思いますので、ご配慮頂ければと思います。また夏休み中の部活動で、暑い中バスを長時間待つ姿も見られました。炎天下の中例年通りではない気候状態なので、そのあたりもご配慮頂き、生徒の安全第一で考えて頂ければと思います。

2.実証内容と成果③

スポーツ庁

参考資料



【合同練習で御嶽高地トレーニング】



【全国・東海大会出場者激励会（合同練習により複数の中学校から出場）】



【指導者研修会】



【部活動地域展開Tシャツ（市内中学生統一）】

2.実証内容と成果

スポーツ庁

地域クラブ活動の実施に至るまでの合意形成プロセス

令和2年		令和3～5年		令和6年	令和7年～
校長会にて今後の部活動にあり方について協議	▶ 合同部活動のあり方、生徒の移動方法の検討	▶ 地域移行検討協議会（仮）の組織化	▶ 合同部活動の実証検証、生徒移動手段の確保	▶ 市内全中学校での部活動地域展開	▶ 部活動地域展開の更なる充実

● ステークホルダー
＜運営＞
下呂市教育委員会、学校
＜協議会＞
校長会、教頭会、中体連、市スポーツ協会、市長部局

● 経過
令和2年度、下呂市校長会にて、今後の部活動のあり方について検討した。それは、生徒数の減少や、学校規模の縮小による教職員数の減少等により、部活動が成り立たなくなってきたからである。そこで、令和3年から令和5年にかけて、校長会にて検討を重ね、下呂市部活動のコンセプトを設定するとともに、合同部活動の試行、指導者バンクの作成、指導者間の連携、生徒の移動手段の確保、小学校教員の部活動兼務者の配置、各種調査、岐阜県や飛騨地域における地域クラブ推進会議への参加、指導者研修会（前後期1回ずつ）の開催等、体制づくりを徐々に進めてきた。

● 実施内容
令和7年度は、下呂市内6中学校全てにおいて、休日の部活動地域展開2年目を迎えた。休日活動の指導者は、社会人指導者43名、教職員30名となり、連携を密に取りながら活動を進めている。また、どの指導者も部活動ガイドラインに従った適切な指導を行うため、指導者の指導力向上を図るための研修会を年5回実施した。研修会の内容は、「栄養学（食育）」、「ジュニア期のスポーツ指導のあり方」、「子供が主体的に動くチームづくり」等、教育的指導の力量向上を意図して研修を設定した。

● 実施にあたって生じた課題
生徒の移動について公共交通機関ではどうしても若干の時間的ズレが生じるという保護者の意見がある。できるだけ適切な時間に行き来できるよう活動時間を設定する等の配慮が必要である。

● 実施内容、工夫した点 等
昨年度に引き続き、指導者の研修会は、勝利至上主義ではなく教育的指導の観点を踏まえての研修を企画・開催した。

3.今後の方向性

スポーツ庁

地域連携・地域移行の推進に向けたロードマップ

令和3年

- 下呂市部活動構想の学校関係者に周知
- 下呂市部活動合同練習要綱による合同練習の拡大
- 下呂市モデルの第一歩（B中学校とスポーツクラブ）
- 移動手段にスクールバスを活用
- 社会人指導者に加え部活動指導員配置
- 小学校教員の部活動兼務者の配置

令和4年

- 合同部活動をさらに推進し、やりたい部活動を維持
- 指導者バンクを作り、教職員と外部指導者を下呂市部活動指導員登録し、市教委から委嘱
- 生徒の移動手段を確保し、スクールバスの定期運行や、公共交通機関を利用した場合の市負担

令和5年

- 各種調査（中2生徒、教職員）の実施、中体連理事会との連携会議、校長会での説明、部活動地域移行連携会議の開催
- 岐阜県、飛騨地区における地域クラブ活動推進会議に参加
- 指導者研修会（前後期2回）を開催

令和6年

- 市内6中学校全てにおいて土日の部活動地域クラブ展開を開始
- 協議会にて地域展開の問題課題を協議、次年度につなげる検討会
- 学校、生徒、保護者、指導者より意見を募りより良い指導体制の更なる修正

令和7年

- 地域展開初年度での問題課題について、修正・実践（指導謝金、生徒の移動、総合型地域クラブとの更なる連携等）
- 部活動地域展開のコンセプトの再確認

令和8年～

- 社会人指導者による平日の部活動のあり方について検討、試験的導入
- 下呂市スポーツ協会との協議により、将来的な運営主体について協議
- 生徒の実態にあったクラブ活動展開の更なる充実「生徒にとって有益であり持続可能な部活動のあり方」を軸にした下呂市型地域展開